

1 評価

(1) 次に示す観点において総合的に評価を行う。

前期	後期
【知識・技能】 ① 研究論文（日本語） ② 英語発表会資料作成 ③ 英語発表会 【思考・判断・表現】 ① 研究論文（日本語） ② 英語発表会資料作成 ③ 英語発表会 【主体的に学習に取り組む態度】 ① 英語発表会	【知識・技能】 ① 研究論文（英語） ② 課題解決学習（個人） ③ 課題解決学習（グループ） 【思考・判断・表現】 ① 研究論文（英語） ② 課題解決学習（個人） ③ 課題解決学習（グループ） 【主体的に学習に取り組む態度】 ① 課題解決学習（個人） ② オープンコースウエア

(2) 龍野高等学校第Ⅲ期 SSH 事業において育成を目指す「未来をつくる創造力」について、理数探究（3年）では、以下の到達目標を設定する。

SSH第Ⅲ期で育成を目指す力 「未来をつくる創造力」	① 課題を発見する発想力 ② 研究を深化させる思考力 ③ 成果を拡げる発信力 ④ 他者を理解する共感力
龍野高校 3年生 到達目標 ・ 5段階の うちの 到達度4	① 課題を発見する発想力（科学的に探究可能な課題を発見し、研究する力） ・全体を通して科学的に検証可能な研究課題を設定し、仮説を立てて研究に取り組んでいる。 ② 研究を深化させる思考力（科学的に試行錯誤し、課題を解決する力） ・データを適切な証拠として利用できるように処理し、分析している。 ・データや資料に基づいて科学的な考察ができています。 ③ 成果を拡げる発信力（研究で得られた成果を世界により広く発信する力） ・研究成果の発信が他者に的確に伝わる表現である。 ④ 他者を理解する共感力（多様な意見を尊重しつつ、自分の考えをまとめる力） ・自身と異なる意見を尊重し、自身の研究に取り入れている。

2 学習内容

- (1) 研究論文（日本語）
理数探究（2年）で行った研究活動を研究論文としてまとめる。
- (2) 英語発表会資料作成
英語発表会に向けて、研究内容を英語のポスターとしてまとめる。また、要旨や発表原稿を作成する。
- (3) 英語発表会
研究発表（ポスター）を行う。
- (4) 研究論文（英語）
これまでの研究活動を整理し、英語論文としてまとめる。
- (5) 課題解決学習（個人・グループ）
身近な現象から実験課題を設定して、その解決に個人やグループで取り組む。実験課題に対して立てた仮説や検証方法、考察などを英語で表現する。
- (6) オープンコースウエア
これまで行ってきた研究活動と大学での研究活動を比較することで、自身の研究活動を改めて振り返り、今後の研究活動に生かす。